

トラクターを使った農業や肥料の散布を効率化するアプリ(応用ソフト)の開発に取り組みのが農業情報設計社(北海道帯広市)だ。地図上に散布した範囲を表示し、正確な作業が可能になる。アプリを使わない場合と比べて1割程度コストを抑えられる。農家の生産力を上げることで、日本農業の底上げを目指す。

「農業や肥料散布のためトラクターの後部に付ける噴霧用の装置は、横に20センチ程度の長さで広がる。散布の無駄がないように走るの非常に難しい」。浜田安之・最高経営責任者(CEO)(45)はこう説明する。

等間隔での散布ができなければ重なる部分やまけなかった場所ができ、雑草の繁殖や農作物の収穫量の減少といった問題につながる。

農業情報設計社はスマートフォン(スマホ)やタブレット(多機能携帯端末)用のアプリ「AgriBusiNAVI(アグリバスナビ)」を

農薬散布 スマホと連携

これで **勝負**

開発し、効率的な農業の散布を助ける。

GPS使いの把握

スマホなどの全地球測位システム(GPS)と連動することで、トラクターの動きを把握する。動きの軌跡や散布跡をア

地図に軌跡、無駄なく作業

アプリの地図上に表示する。アプリを使わずに散布した場合と比べて、燃費や散布物のコストを1割ほど抑えられるという。大規模な農場では、年間1000万円以上の肥料代がかかっている所もあり、コスト削減の効果は大きい。

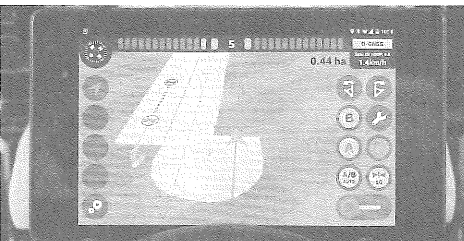
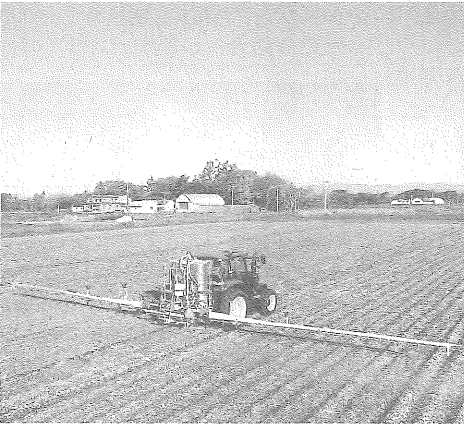
内には200万台のトラクターがあるが、専用端末は5千台程度までしか普及していないという。アプリ無料提供

同社はGPSはスマホのものを利用し、アプリは無料で提供することで市場を開拓する。負担はだ。アプリは、大規模農場の多い海外からの引き合いが特に多いという。GPSの位置情報を活用し、田畑を耕すときの深さなどが分かる機能を付けた有料版のアプリの提供も予定している。

アプリを利用することで削減できたコストや時間をどう有効に使つか、農家によく考えて欲しいと切望する。「農作物の量産化に注力してもいい、質の向上に使用もいい。日本の農家を底上げするインフラとして使ってほしい」(浜田CEO)

《会社概要》
 ▽売上高 1500万円 (2015年9月期)
 ▽社員数 1人

2014年4月に設立。東京都での起業も考えたが「製品を使う農家は北海道の方が多し。現場の声を聞きたい」と北海道帯広市に拠点を構えることを決意した。今年中には社員を5人程度採用する意向。



農薬散布は跡が残らず、まいた場所の把握が難しいためアプリでトラクターの軌跡をイラストにして分かりやすく表示(写真下)する

アプリ開発 農業情報設計社

オフィス不用品を一括処分

業証

超の削減も可能になるとい

庭付き一口建てタイプ

写真付きでブログに掲載

(黒田弁慶)